

『JASAビジョン2030』 『創造』をリードするJASA ～「安心・安全・快適」な社会～

一般社団法人組込みシステム技術協会
会長 竹内 嘉一

JASAは、これから立ち向かうウィズコロナ、アフターコロナの中で、様々な経営課題と向き合い、業界団体としての存在意義の見直しと強い事業基盤の再構築を目的に『JASAビジョン2030』の策定に着手しました。

『JASAビジョン2030』は、SDGsのゴールに合わせて2030年のあるべき姿を描き、そこからのバックキャストと、35年の歴史から学ぶフォアキャストとの融合で考えて、3ヵ年計画単位で策定を進めます。2030年までは黎明期、成長期、成熟期の3つのステージで考え、各々を3ヵ年計画として立案していくことを考えています。

35年の歴史と実績

JASAの35年の歴史と実績は、1986年にマイコン応用を事業とするシステムハウスが全国で乱立する中、その企業群をひとつの業界とし共に成長させるために、莫大なエネルギーを以って全国規模の協会として統一し設立したのが始まりです。翌年に立

ち上げた展示会事業は、紆余曲折ありながらも日本の半導体業界とともに成長し続け、JASAの屋台骨事業となるまでに成長しています。

また、業界団体として関連技術の調査・開発、人材の育成、業界内外との交流などにも積極的に取り組み、かつ、時代の流れと市況の変化を捉えながらチャレンジし続けてきた結果、設立20周年の節目に「組込みシステム技術協会」と改名し、翌年には「組込みソフトウェア業」が日本標準産業分野に登録されました。組込みソフトウェア業を「日本のモノづくり産業を支える業界」として認知させたことは、JASAの大きな功績であると考えています。

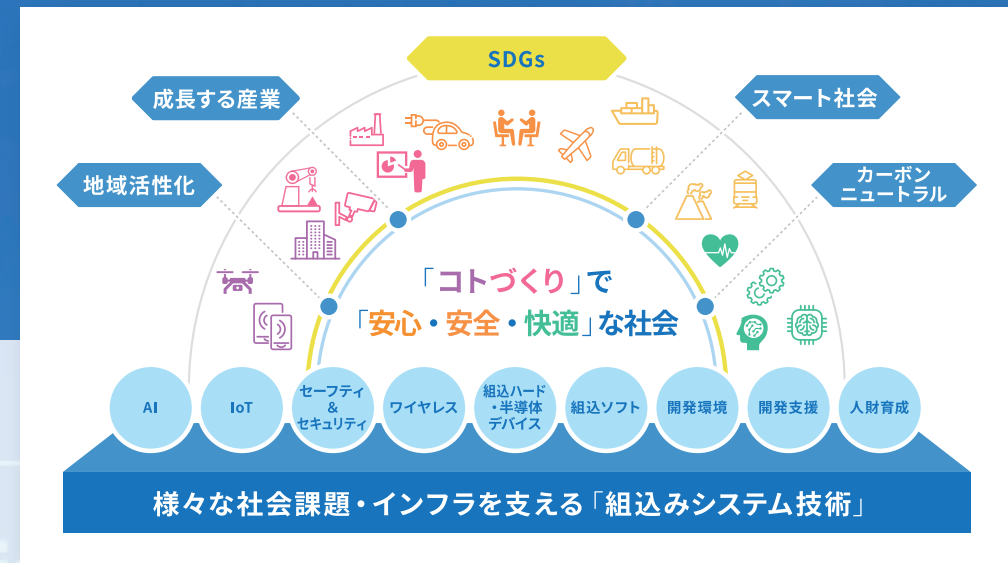
そして2012年に一般社団法人へ移行し、組織的にも経済的にも整備、強化されて現在の本部（事業推進本部、交流推進本部、人材育成事業本部、技術本部、ET事業本部）と7つの支部という体制で順調に協会活動を進めて参りました。

ビジョン策定の背景

ご承知の通り2020年の初頭から始まったCOVID-19のパンデミックは、世界的に様々な制限を発生させ、経済活動に大きなダメージを今も与え続けています。

JASAの活動も例外ではなく、一部のセミナーや会議などはオンライン環境の活用で凌げたものの、全ての活動の基本である対面活動の制限は、人と人の交流が目的である懇親会や屋台骨事業の展示会事業を停滞させ、2年連続で厳しい活動内容と決算になる見通しです。

加えてわが国ではSociety5.0の実現に向けてDX推進の潮流の真只中で、2025年の崖の警鐘で全ての産業でデジタル化推進が謳われ、川下企業では内製化が進んでいます。企業は利益追求型からSDGsへの取り組みを重視され、旧態依然の事業はジリ貧が予想され新しいビジネスモデルへの変革を求められています。



2030年のあるべき姿とは

このような社会情勢の中、JASAが目指すべき姿もSDGsのゴールと合わせて2030年に設定しました。

社会課題先進国であるわが国は、どこよりもSDGsを推進する必要がある、各産業におけるDX推進の潮流への対応、少子高齢化問題、労働力不足、地域格差、環境問題、エネルギー問題など社会課題は山積しています。

組込みシステム業界は、これまで製品開発という「モノづくり」を支えてきた要素技術としての「組込みシステム技術」を追求してきましたが、今後はこれまで培ってきた「モノづくり」の技術を「コトづくり」へとつなぎ合わせて、様々な社会課題に向き合うとともにインフラ構築を支え、「安心・安全・快適」な社会を実現させる「組込みシステム技術」へと昇華させる業界づくりを目指すことをあるべき姿としました。

JASAのあるべき姿へのロードマップ

組込みシステム業界の更なる発展に向けて、組込みシステム技術を中心に据え、以下の4つの視点で考えています。

1. ビジネスマッチング

まずは屋台骨である展示会事業の方向性をしっかりと見据える必要があります。これまでリアル展示会を前提にした収益構造で進んできましたが、コロナ禍対応でデジタル展示会やハイブリッド展示会にチャレンジし、新たな可能性は見出せたも

の、運用面や収益面で課題が残っているので、今後は総合展示会として1年間を通してイベントのトータルコーディネートをするなど刷新を進めます。

また、展示会事業を更に分かりやすく見せ、かつ、各々のJASA会員の立ち位置も示せる業界マップの制作とそれを基にしたビジネスマッチングを加速してJASA会員の営業支援を推進していきます。

2. 人材育成

これまで人材育成事業のETEC試験は収益事業として進め、各種セミナーは各事業や支部の付帯イベントとして無償で提供してきましたが、今後は収益事業として計画を改め、教育コンテンツの整備を強化し、会員以外への有償セミナーの拡充を図ることにしています。

ETEC試験も、基となるETSSのメンテナンスをIPAから委託いただけるように協議を進め、ETEC試験の拡充と教育イベント、教育本の出版など事業拡大を図ります。

3. 経営支援

事業本部や委員会、WGの活動を通して、一部の経営者間の交流は盛んである一方で、JASA活動に参加していない会員を巻き込む仕掛けが少ないことが課題です。今回、経営者の困りごとを共有しながら交流を促進する目的で経営者向けプログラムとして、経営知識を得る教育や後継者問題、M&A、新規事業立上げ、異業種交流などの支援する仕組みを構築していきます。

また、具体的な新規事業の創出として、今

後の事業に欠かせないセキュリティ設計手法の教育に始まり、国際標準規格への追従を進めながら、将来的に組込みセキュリティの認証事業への展開を模索していきます。

4. 技術研鑽

組込みシステム技術協会の名にふさわしく、技術本部の活動は活発で多岐に渡り、時流に乗った活動を進めていますが、その成果を活動外の会員が上手く享受できていないという課題があります。

その1つの解決策として、会員の皆さんに広く使っていただける業界標準のプラットフォームを開発することを考えています。まずは実行環境プラットフォームとなりますが、将来的には技術本部のWGの活動成果も展開できる仕組みとなることを期待しています。

最後に、施策への協力と活性化への願い

最後に繰り返になりますが、組込みシステム業界の更なる発展にはJASA自身のビジネスモデルの変革を模索し、業界団体として会員企業との関係性を見直し、JASA自身を次世代に向けて変革(Transform)させていく必要があります。

その為には、会員の皆さんの声と知恵を如何にビジョンに反映し、活動計画に落とすかがポイントとなります。

会員の皆さんには、組込みシステム業界がより良い業界となるようJASA活動の重点施策へ積極的な参加をお願いいたします。

